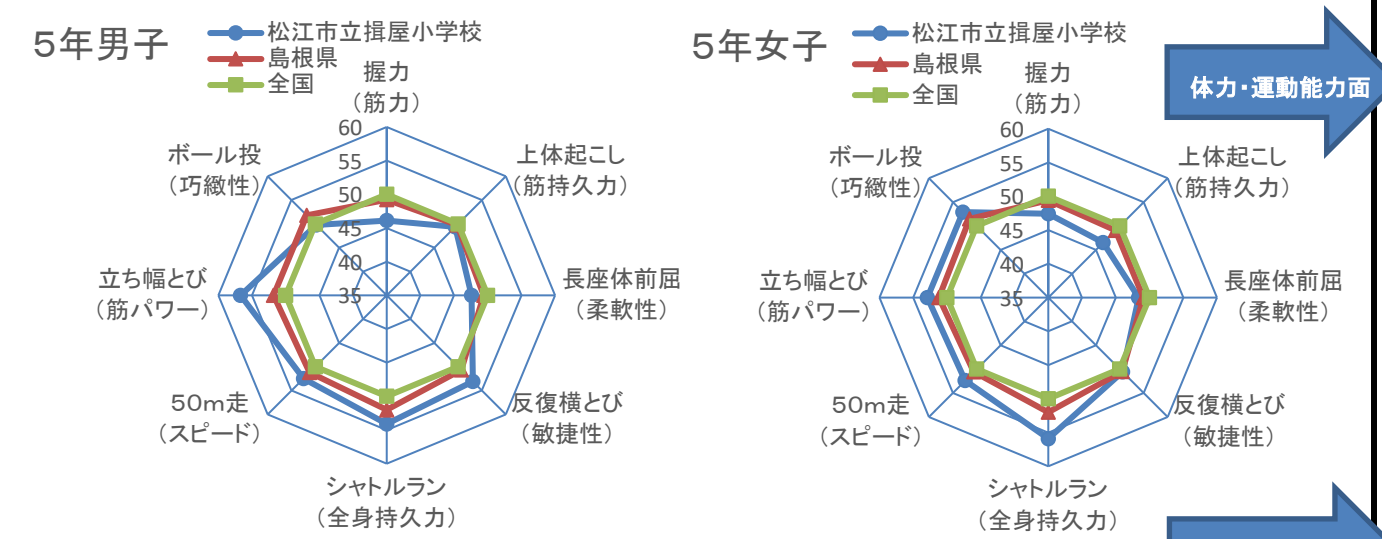
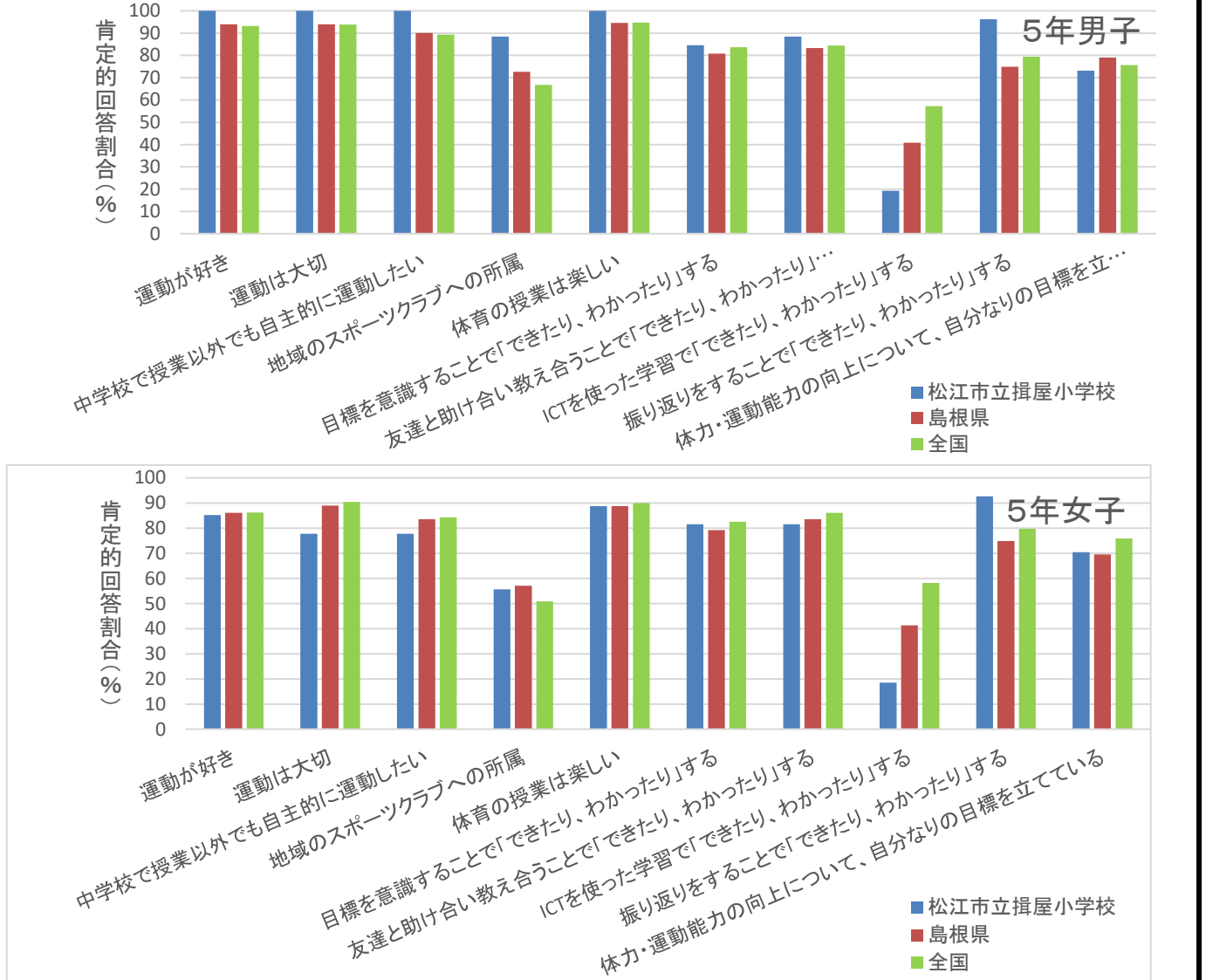


(1) 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力 (筋力)	上体起こし (筋持久力)	長座体前屈 (柔軟性)	反復横とび (敏捷性)	シャトルラン (全身持久力)	50m走 (スピード)	立ち幅とび (筋パワー)	ボール投 (巧緻性)
男子	-3.9	-0.6	-2.4	3.1	4.1	2.5	6.7	-0.2
女子	-2.6	-3.5	-1.6	0.6	5.9	2.4	2.9	2.9

【-5p以上】 【-5~-2p】 【-2~0p】 【0~2p】 【2~5p】 【5p以上】
弱み ← → 強み

② 意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	運動は大切	中学校で授業以外でも自主的に運動したい	地域のスポーツクラブへの所属	体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったり」する	友達と助け合い教え合うことで「できたり、わかったり」する	ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する
男子	6.8	6.2	10.7	21.8	5.3	0.9	4.1	-38.0
女子	-1.0	-12.6	-6.6	4.7	-1.2	-1.0	-4.6	-39.7

振り返りをすることで「できたり、わかったり」する
体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている

男子	16.8	-2.6
女子	12.8	-5.5

【-7%以上】 【-7~-3%】 【-3~0%】 【0~3%】 【3~7%】 【7%以上】
弱み ← → 強み

(3) 令和7年度の方針【学校全体での取組】

- (1) 年間を通した取組
- 今年度の鉄棒運動調査結果(本校53.4%)を受け、逆上がり達成率55%以上を目指す。
→今年度のように、調査の期間に「学期の間」と幅を持たせ、児童が長期的に目標をもって取り組むことができる仕組みを設ける。
 - 今年度の「児童の体力や運動に対する意識及び運動習慣の現状」の結果のうち、「柔軟性」を高める。
→朝の会または朝学習の時間を活用し、体幹トレーニングを位置付ける。頻度は来年度始めに検討する。
- (2) 授業の工夫・改善
- 今年度は準備運動や整列の仕方、5種目歩走の提案を行ったが、これを常活動として位置付けていく。
 - 「柔軟性」の向上を重点にしたアンケートを年に2回(5月・1月)計画して、児童の変容(5月の記録と1月の記録を比較する)を捉えることを提案したい。そのためには年間を通じた日常生活の中での体づくりへの意識化(朝の会または朝学習の時間を活用した体幹トレーニング)が必要ではないかと考える。
- (3) 体育授業以外の活動(学校ぐるみの取組や全校活動、環境の工夫等)
- 体育委員会の活動を生かし、運動への親しみを目的とした運動遊びを企画する。
 - 休み時間を利用した「体づくりチャレンジカード」(鉄棒、登り棒、雲梯を利用するカード)への取組を促し、体育委員会の活動として位置付ける。